

# 第3章 高山市の歴史遺産や伝統文化の特性

## 1 各地域の歴史遺産や伝統文化

本市は、平成17年2月1日に周辺の9町村と合併を行いました。

9町村の範囲が現在の各支所の地域となっており、同じ飛騨の風土の中にありますが、地域ごとの自然環境の相違や、街道を通じた他地域との交流等の影響により、地域ごとの特色ある歴史遺産や伝統文化を育んできました。そのため、まず本計画は各地域の歴史遺産や伝統文化を記載します。

以下、9町村の範囲を「支所地域」と総称し、それぞれの範囲は旧町村名を用いて「丹生川地域」等とします。上宝支所管内は「上宝・奥飛騨温泉郷地域」とします。

図17 全体図（支所地域区分）



## (1) 高山地域



写真 33 高山祭屋台(夜祭)

高山地域は宮川、川上川、<sup>だいほちが</sup>大人賀川などが合流する場所  
にあって、盆地状の地形です。河床に固い岩盤が露出して  
おり、古くから平らだった場所がたまたま残ったと考えら  
れています。

奈良時代に国分寺、国分尼寺が置かれ飛騨の中心地とな  
りました。戦国時代に松倉城が築かれ、その突出した規模  
や構造から飛騨全域支配を視野に入れた城と考えられます。  
金森長近の入国後は高山城が築かれ城下町も整備されまし  
た。江戸時代中頃に高山陣屋が置かれ、飛騨の政治経済の  
中心地となって発展しました。人口が密集し経済が盛んにな  
るにつれて富が集約され、いわゆる旦那衆と呼ばれる豪  
商たちが現れ、経済のみならず文化の担い手ともなりました。  
ユネスコ無形文化遺産となっている高山祭の発展は旦那  
衆たちの尽力がありました。

明治維新後も高山陣屋の場所に高山県庁や岐阜県飛騨支  
庁が置かれ、飛騨の政治的中心地であり続けます。高山の  
近代化は、鉄道の開通が昭和9年とやや遅かったため、ゆ  
っくりと進んでいきました。

## (2) 丹生川地域



写真 34 五色ヶ原の森

<sup>にゅうかわ</sup>丹生川地域は乗鞍岳の西麓にあり、東から西に向かつて  
緩やかに下る地形にいくつかの谷が入り込んでいます。豊  
かな自然に恵まれ縄文時代から人々が暮らしてきました。  
乗鞍岳は、西側から望む山容が端正で、信仰の対象ともな  
りました。江戸時代に、修験僧円空が当地域に滞在して乗  
鞍岳などの登山を行うとともに、千光寺に長く逗留し  
<sup>りょうめんすくな</sup>両面宿禰像をはじめ多くの仏像を遺しました。また、<sup>くだがい</sup>管粥  
神事などの修験道に関係した風俗慣習も遺されています。

周辺地域とは平湯街道、上宝街道、長倉道で結ばれてい  
ました。<sup>しおや</sup>塩屋氏が居城したと言われている尾崎城跡から貴  
重な陶磁器や古銭などが発掘され、広域の交流があったこ  
とが分かります。

比較的標高の低い西部の谷沿いに河岸段丘が発達してお  
り、水田耕作が行われ、<sup>きたがた ほうりき</sup>北方や法力などの街道沿いに南面  
して町家型民家が並列する特色ある集落が見られます。江  
戸時代に豊かな山林資源と鉱山資源を活かした製炭や採鉱な  
どの産業が発達し、木地師も活動しました。江戸時代の後半  
からは養蚕が盛んになり、建物の造りなどにも影響を与え  
ています。

### (3) 清見地域



写真 35 ひねりの舞(上小鳥八幡神社)

清見地域は1,000m級の山々が連なり豊かな自然が広がり、その南側に分水嶺が走り、宮川やその支流の最上流部に当たります。多くの峠があり周辺地域とも結ばれていました。縄文時代の遺跡が多く、三日町や牧ヶ洞で弥生時代の遺跡も見つかっています。

白山に近く、中世に白山信仰と強い結びつきのあった郡上郡の長滝寺の支配を受けました。白山神社も地域内に13社を数えます。その後浄土真宗の勢力が強まり、15世紀に栗原道場(了徳寺)や檜谷道場(檜谷寺)など真宗道場が開かれました。

金森氏は入国後街道の整備を行い、郡上街道が通る大原に口留番所、旅館や牛次場を置いています。さらに片野金山や森茂金山の開発も行っています。

当地域は自然や農耕と結びついた伝統行事が多く遺っています。鎌納め、千歯納めといった農具に感謝する行事や、山の神様に安全祈願するてんぐ祭が行われています。

七年に一度奉納される上小鳥八幡神社のひねりの舞は、武者などに扮した行列によって舞われる祭礼芸能です。

### (4) 荘川地域



写真 36 ヴェロクラプトル亜科(小型肉食恐竜)の歯の化石

荘川地域は庄川の最上流部にあって標高が高く、冬季に本州の最低気温を記録することがあり、豪雪地帯でもあります。地質は化石が出ることで有名な手取層群があり、二か所が岐阜県の天然記念物に指定されています。

旧石器時代の石槍や縄文土器が出土しており、古くから人々が暮らしたことが分かります。古代から中世にかけては白山信仰で勢力のあった長滝寺の荘園となり、現在でも白山神社が多くあります。

中世に浄土真宗の勢力が盛んとなり、荘川の中野の照蓮寺が飛騨の真宗の拠点となりました。金森氏の城下町整備に当たり、その機能が高山城下町に移されました。昭和35年に御母衣ダム建設のため中野の道場の建物が城山の二之丸へ移され、国の重要文化財となっています。

江戸時代、荘川の三島家の生まれで高山の上木家の養子となった上木甚兵衛は、飛騨で起きた農民一揆、大原騒動への加担により伊豆の新島へ島流しとなりました。甚兵衛はその人徳により、島民からは「飛騨んじい」と慕われ、息子三島勘左衛門の孝行譚と合わせ書籍などで紹介されるとともに、荘川地域と新島の交流事業も行われています。

## (5) 一之宮地域



写真 37 飛騨一宮水無神社

一之宮地域は宮川の最上流部に位置し、<sup>くらいやま</sup>位山は日本海側と太平洋側の分水嶺となっています。その山容は高山の市街地からも望むことができ、江戸時代に和歌等に詠まれました。

豊かな自然に恵まれ、国指定天然記念物の臥龍の桜をはじめとした天然記念物が多くあります。山林資源を生かして飛騨匠が腕を振るい、位山のイチイで作った<sup>しやく</sup>笏は、古来、天皇即位に際し献上されました。イチイを薄く削って編む<sup>みやがさ</sup>宮笠などの特産品も受け継がれています。位山のすそ野を通る位山道は、かつての東山道飛騨支路の一部で、往時は飛騨匠もここを歩いたことでしょう。

金森氏の飛騨進攻の際、当地域を治めていた<sup>みつきさんたく</sup>三木三沢は山下城にこもり領民と共に抵抗したと言われており、今でも三木氏は地域で語り伝えられています。

飛騨一宮<sup>みなし</sup>水無神社は、平安時代に飛騨の一之宮とされた由緒ある神社です。江戸時代の大原騒動の際は、一揆に立ち上がった農民の集会の場所となりました。例祭「宮祭」は毎年5月に行われ、県指定の無形の民俗文化財である神事芸能が行われます。

## (6) 久々野地域



写真 38 堂之上遺跡

西の<sup>たかたわやま</sup>船山、東の高屹山に挟まれた、飛騨川と<sup>むすご</sup>無数河川の合流地点に久々野地域の中心地があります。久々野の地名の由来は木の神である<sup>くく のちのかみ</sup>久々能智神を祀ったためとも言われており、森林資源の豊かさをうかがうことができます。森の恵みを生かした<sup>うとうしやくし</sup>有道杓子や<sup>こやな</sup>小屋名しょうけなどの伝統工芸が現在に受け継がれ、その活用と継承に積極的に取り組んでいます。

飛騨川と八尺川に挟まれた台地の上に縄文時代前期から中期の土器や住居の跡が見つかった<sup>どうのそら</sup>堂之上遺跡があります。土器の様相は日本列島の東西からの影響を受けたと考えられています。

金森氏は入国後に街道の整備を行い、古代の<sup>くらいやまみち</sup>位山道を通る峠越えの道を飛騨川沿いの道に切り替えました。その後、街道は町人等の協力も得ながら整備されました。

近世は御用木を産出し、運送手段は流送が中心であったため、川の合流点の当地域に渡場が置かれました。さらに<sup>てんま</sup>宿や問屋が設置され、伝馬制度の駅馬を負担しました。その影響により、産馬が地域の中心産業となりました。

## (7) 朝日地域



写真 39 神明神社の枝垂れ桜（青屋地区）

朝日地域は乗鞍岳や御嶽山の山麓に位置し、飛騨川やその支流青屋川が主に東から西へ流れています。森林がほとんどを占めますが、河川沿いに河岸段丘が形成され甲や万石などの集落に水田が広がっています。

自然が豊かで、春はフクジュソウ、スズラン、レンゲツツジ、枝垂れ桜などが咲き乱れ華やかな雰囲気醸し出します。なかでも枝垂れ桜は寺社に多く見られ、枝垂れ桜の里と言っても過言ではありません。

旧石器時代のナイフ形石器が発見されており、古くから人が住んでいたことが分かります。戦国時代に東藤氏が甲城を築きました。

江戸時代に金森氏が飛騨から江戸へ向かう街道を整備しました。一之宿、中之宿などの地名にその名残を見ることができます。江戸時代は、山林資源が豊富であるため、幕府に上納する御用木を生産しました。その他、標高の高い地域で牛馬の生産や、ワラビ粉製造が主要産業となりました。江戸時代中期に僧円空がこの地に来訪し、多くの円空仏を遺しました。

## (8) 高根地域



写真 40 現在の野麦峠

乗鞍岳と御嶽山の間に位置し、東は長野県に接している高根地域は、山深く飛騨川やその支流日和田川の最上流部に当たります。自然が豊かでレンゲツツジやカツラの大木、イチイの社叢などが指定文化財となっています。

長野県諏訪地域産の黒曜石を用いた旧石器時代のナイフ形石器が発見されており、野麦峠や長峰峠などを往来し、山麓を活発に移動したことが分かります。

江戸時代に野麦峠の道が江戸へ向かう重要な街道となり、多くの人が行き来しました。明治時代以降は、飛騨の若い女性が女工として野麦峠を越えて長野県へ出稼ぎに行き、その様子は映画になって有名になりました。

江戸時代に飛騨をゆるがした大原騒動は、当地域の大きな産業であった御用木の伐出しの中止が、発生の原因の一つとなっています。また江戸時代から明治にかけて馬の生産も盛んに行われ、馬大尽とも呼ばれた日和田の原家はその繁栄が今に伝えられています。日和田、小日和田地区は馬頭観音などの石仏が多く遺されており、人々の馬にかかわる信仰を知ることができます。

## (9) 国府地域



写真 41 安国寺経蔵

地域内に宮川と荒城川が流れ、その周辺に広い沖積平野が広がっています。宮川の支流、宇津江川の上流に溪谷や森林が美しい宇津江四十八滝があり、四季を通じて自然の素晴らしさを満喫できます。宮川の堤防に、戦国時代に広瀬氏が植えさせたことに始まる桜の名所、桜野公園があります。

肥沃な平野を背景に古代から栄え、古墳時代に亀塚古墳やこう峠口古墳などの大きな古墳が築かれ、古代寺院も多く築かれました。中世になると、国宝に指定されている安国寺経蔵や、荒城神社本殿などが建造されました。これらは国府の中世社寺建築群として日本遺産の構成文化財になっています。また、鎌倉時代に多好方が荒城郷の地頭職に着任して闘鶏楽を伝えたとの伝承があります。

耕地の豊かさと引き換えに戦国時代は戦場となり、飛騨を二分する戦い、八日町の戦いもありました。その緊張状態を反映して、広瀬城をはじめ山城が多く遺っています。

中世に創建された清峯寺は、江戸時代に僧円空が滞在し、最高傑作の一つとされる円空仏3体を作りました。

## (10) 上宝・奥飛騨温泉郷地域



写真 42 戦前の平湯温泉公衆浴場

東側に槍ヶ岳や穂高連峰など 3,000m 級の山々を有する当地域は、岐阜県側の登山基地として多くの人々が訪れます。登山の歴史は古く、江戸時代に山岳信仰の対象として円空、南喬、播隆などが信者らとともに山に登りました。

山岳地帯のため峠越えの道も利用されました。中尾峠は中世の鎌倉街道であったとも言われており、平湯峠は高山と結ぶ街道として親しまれ、盆踊りに歌われています。

大正時代、平湯で青年教育や工女の待遇改善に尽くした篠原無然は、冬の安房峠越えの帰路の途中で遭難死し、その生き様は小説になりました。

地質的にも特徴があり、特に焼岳西側の福地層は古生代デボン紀の代表的な地層です。また焼岳は活火山であり、周辺は温泉が多く、平湯など五つの温泉地からなる奥飛騨温泉郷は江戸時代から湯治場として発展しました。

山がちな地域ですが、本郷地区周辺は河岸段丘が発達し、江戸時代から水田が作られています。江戸時代に起きた大原騒動の際に、本郷村の善九郎が農民側の指導者として処罰を受け、その清廉さが後世の人々に感動を与え映画になっています。

## 2 歴史遺産や伝統文化の特性

「かにかくに物はおも念ひわじだ斐太人のすみなわ打つひ墨繩みちのただ一道に」

奈良時代の万葉集に収められている作者不詳のこの歌は、都の造営に当たっていた飛驒の匠丁しょうちやうが、用材の木取りを適確に行うために一心に墨繩を打つ様を詠んだものです。素材の本質を見極め、その良さを十分に活かそうとするものづくりの心は、高山の歴史遺産や伝統文化の特性を表しています。自然の恵みである山林資源や動植物資源などの性質を見極め、その良さを十分に活かすことや、東西の交流によりもたらされた物資や文化の本質を見極め、その良いところを採り入れ、さらに独自に磨きあげていくことといった文化の営みが織り成されて、高山の歴史が形づくられてきました。

### (1) 自然の恵みを活かす 周辺地域との交流と山国飛驒の起こり

(概要) 本市は大部分が森林であり、山の恵みとして狩猟採集に適した様々な生物を育み、旧石器時代以降、山国飛驒に人やモノの交流を通じて他地域の文化がもたらされ、独自の文化も織り成されてきました。

岐阜県北部の飛驒地方に位置する本市は、巨視的には東は飛驒山脈、西は両白山地に挟まれた高原状の地形です。長野県諏訪地域の黒曜石で作られたナイフ形石器が出土するなど、旧石器時代から人やモノが移動していたことが分かります。

市域の大部分を占める森林は、山の恵みとして狩猟採集に適した様々な生物を育み、人々はそれらを楽しめるとともに、山に対する畏敬の念をいだき、山岳への信仰へとつながりました。

縄文時代の人々の暮らしの足跡を、縄文時代前期から中期の集落跡である中切上野遺跡や堂之上遺跡に見ることができ、これらの住居跡からは、信州・北陸・東海・関西などの影響を受け、それらの良さを取り入れつつも、飛驒独特の特徴を示す土器が多数出土しています。

古川国府盆地は耕作に適した土地があるため早くから開けており、古墳時代に、多くの鉄製武器が副葬された亀塚古墳や、三日町大塚古墳などの大規模な古墳が造られました。飛鳥時代後半になると、石橋廃寺など多くの古代寺院が造営されました。

その後の奈良時代に、高山盆地に国府が置かれたことで、国分寺と国分尼寺が造営されました。

### (2) 素材の良さを活かす 飛驒匠の技と心

(概要) 奈良時代の律令体制のもとに定められた飛驒匠の制度は、素材の良さを活かす飛驒匠の技と心として現代に受け継がれています。

奈良時代、高山に国府が置かれると、中央や他国との交通のため、東山道飛驒支路などの主要な街道が整備されたと考えられます。それにより人やモノの移動がさらに活発になりました。

奈良時代の律令体制下で発せられた養老令の「斐陀国条」により、飛驒国は庸調の税負担が免除される代わりに、毎年約 100 人の匠丁が、東山道飛驒支路などの街道を往来して平城京などでの出役に

当たることが制度化されました。豊富な木材資源を有していることにより、既に木の「素材を活かす技」が飛騨に根付いていたことがうかがえます。

平安時代になると飛騨匠の逃亡記事がいくつか見られますが、匿ったものも罪に問う、とあることから、飛騨匠の技術力を求め、引き抜くものがいたと考えられます。飛騨匠の優れた仕事は語り継がれ、江戸時代になると説話などに登場するようになりました。

現在も遺る中世社寺建築群や近世・近代に活躍した大工一門の作品群や、木の美しさが際立つ伝統的工芸の技術などに、素材を活かす飛騨匠の技と心を見ることができます。また町人文化の一つである飾り物は、既存の身近にある道具を見立てて題を表現する知的娯楽であり、素材の良さを活かす心を表すものです。

### **(3) 地の利を活かす 中世の動乱と金森氏によるまちづくり**

(概要) 中世の動乱を治め、飛騨を領国とした金森長近は、交通の要衝である高山盆地において、地の利を活かしたまちづくりに着手しました。

室町時代初期に、南飛騨は守護の京極氏が、北飛騨は国司の姉小路氏や江馬氏が勢力を競っていました。その中で、京極氏の家臣であった三木氏が頭角を現わし、六代自綱の時代に北飛騨の江馬氏を破り、飛騨全域を支配する領主となりました。

さらにその三木氏を攻略し飛騨を領国とした金森長近は、越前大野でのまちづくりの経験などを活かし、交通の要衝である高山盆地において、地の利を活かしたまちづくりに着手しました。

金森氏は、高山城の築造を開始するとともに、城下町づくりに尽力し、高山城付近に武家地を整備し、一之町から三之町の三町付近を町人地とし、また江名子川を改修しました。また高山城の真北に、浄土真宗の拠点であった照蓮寺を移し、東山に寺院群を配置しました。このまちづくりによって育まれた町人文化が、現在に続く飛騨高山の町並みを支えています。

### **(4) 東西の文化の良さを活かす 高山城下町のあゆみ**

(概要) 城下町高山は、飛騨地域の政治・経済の中心地として街道を通じて人、物資、情報が集まり、江戸や上方の文化を取り入れながらもそれに独自の磨きをかけた文化が形づくられました。

城下町高山は、飛騨地域の政治・経済の中心地として繁栄し、城下町から東西南北に整備された街道を通じて人、物資、情報が集まる中で独自の文化が形作られました。

金森氏時代に茶道や上方文化が高山にもたらされ、その文化的素養は武家にとどまらず町人に広がり、城下町は上品で上質な文化的素地が形成され、飛騨春慶などの工芸が育まれました。

幕府直轄地時代に、主に江戸の文化がもたらされ、東西の文化が交差する山都として、町人たちを中心に独自の発展を遂げました。

飛騨匠の技術の結晶である高山祭の屋台は、その代表的なものであり、江戸の山車や、上方の山鉦、からくりなど、祭礼文化のなかの良いものを採り入れ、町人たちが、より美しい屋台とすべく木工、彫刻、鋳金具、織物などの見どころを競い合う中で、独自の発展を遂げました。

## (5) 人々のつながりを活かす 農山村の暮らしと文化

(概要) 険しい山地に囲まれた飛騨の農山村集落は、集落民の連帯や他地域との交流によって、地域の特産品や伝統行事などの、特色ある産業と独自の文化を培ってきました。

険しい山地に囲まれた飛騨の農山村集落は、それぞれが点在し周囲と隔絶されたような場所も多々ありました。長く厳しい冬と急傾斜のやせた土地は農耕に不向きでしたが、農業を生業としながらも、集落民の連帯や他地域との交流によって、各集落で江名子バンドリ、宮笠、小屋名しょうけなどに代表される地域の特産品などの独自の特色ある産業を培ってきました。

主な街道の整備により、農山村集落からは森林資源や農産物が城下町へ供給されることになりました。城下町に街道を通じて物資や情報が集積し、さらに周辺の農山村集落にもたらされるなど、内外の物資や文化の交流が顕著になりました。

農山村集落は、各々で育まれた生活様式、様々な年中行事、独自の唄や踊りなど、個性豊かな地域文化が継承されてきました。とりわけ、集落ごとに行われる祭礼行事は、地域の人々の連帯によって受け継がれてきたものであり、その年の豊作を予め神に祈願し、また秋の収穫を神に感謝するために、獅子舞、鉦打ちなどの様々な芸能が奉納されてきました。